

資料3-18 三重県における赤潮発生状況（令和2年1月～令和2年12月）

整理番号	発生時期(月日)	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積(km <sup>2</sup> )	発生水深(m)	最高細胞数(細胞/ml)	漁業被害	情報源
1	2月24日-3月2日	伊勢湾(北部)	<i>Mesodinium rubrum</i>	2.24-3.2 に伊勢湾北部で発生。最高細胞数は 1,000 細胞/ml (2.24, 城南, 0m)。	不明	0m	1,000	無	漁業者、三重県水産研究所
2	5月18日-5月20日	熊野灘北部(尾鷲湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.18 に尾鷲港で発生。5.20 には尾鷲湾西部に着色域が拡大し、その後は急速に縮小。最高細胞数は 48,875 細胞/mL (5.18, 尾鷲港, 0.5m)。	不明	0.5-1.5m	48,875	無	三重県水産研究所
3	5月28日-6月9日	熊野灘北部(二木島湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.28 に二木島湾西部で発生し、着色域は 6.1 には湾中央部、6.8 には湾東部に拡大、その後、急速に縮小。最高細胞数は 10,600 細胞/mL (6.2, 新田前, 0m)。5,000 細胞/ml 以上を確認したのは 6.1-6.3 の 0m 層。発生時期 (5.28-6.9) 及び水深 (0-5.0m) は、漁業者情報。	不明	0-5.0m	10,600	有	漁業者、三重県水産研究所
4	6月19日-6月30日	熊野灘北部(尾鷲湾)	<i>Ceratium furca</i>	6.19 に尾鷲湾(古里漁場南と松本漁場北西)の 1m 層で発生。本種による着色は珍しい(赤褐色)。6.30 に古里漁場の 5m 以深でごく薄い着色を確認。最高細胞数は 847 細胞/ml (6.19, 松本漁場北西, 1.0m)。	不明	1.0-5.0m 以深	847	無	漁業者、三重県水産研究所
5	7月8日-7月23日	志摩度会(英虞湾)	<i>Takayama sp.</i>	7.8 に英虞湾の湾奥部(立神, 神明)で発生。着色域は湾奥部を中心にパッチ上に展開し、7.13 以降、縮小。最高細胞数は 11,100 細胞/ml (7.9, 立神金山, 0.5m)。	不明	0-9.3m	11,100	無	漁業者、三重県水産研究所
6	9月8日-9月10日	熊野灘北部(尾鷲湾、引本浦)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	9.8 に尾鷲湾南部と引本浦北部で発生。引本浦では 9.9 に着色域が中央部まで拡大。翌 10 日の着色域は、尾鷲湾では湾中央部の一部、引本浦では北部のみとなり、縮小。最高細胞数は 51,450 細胞/ml (9.9, 引本浦・避難港, 2m)。発生時期 (9.8-9.10) 及び水深 (0-5.0m) は漁業者情報	不明	0-5.0m	51,450	無	漁業者、三重県水産研究所
7	9月15日-9月22日	熊野灘北部(須賀利湾)	<i>Prorocentrum triestinum</i>	9.15 に須賀利湾北部で発生。着色域は湾北部(奥部)のみで、パッチ状に着色。最高細胞数は 13,000 細胞/ml (9.15, 近大生貴横, 表層)。	不明	0-2.0m	13,000	無	漁業者、三重県水産研究所

**【注】**

(1) 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載した。

(2) 2あるいは3海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば2つの海域にまたがって発生した場合は、1つの発生に対して2つの整理番号を与え、発生件数は2件とカウントした。

(3) 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅（一時的な細胞数の減少）を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで（完全な赤潮の終息まで）を1単位として記載した。